

県立矢切特別支援学校 の実践について

協議の記録

Q1：オリパラ教育の推進が叫ばれている中、ボッチャの広まりと交流活動の深まりという素晴らしい実践だった。今回新たに考えられた、工夫された「サークルボッチャ」「キック&ダッシュ」のルールはとてもシンプルでわかりやすい。実践された中で改善点・改良点があれば教えてほしい。また、今後どのようにして地域や県内の特別支援学校等に広げていくかのビジョンがあれば教えてほしい。

A1：改善点について、もともとある既存のスポーツを基に考案したもので、既存のスポーツから簡単にしたルールへと移行し、子供たちの中で変えていくところが少し難しかった。

中学部の生徒が「キック&ダッシュ」に取り組んだ時、守る時はボールを手で取り、攻撃の時は足で蹴るのだが、守るときにも蹴ってしまうことがあった。対象者に合わせてルールを変更する工夫をしていくことが必要だと反省があった。

コートは高等部のスポーツ大会に合わせたものである。小学部の児童が行う時は、塁間を短くする、得点の数え方について等の工夫が必要である。今後の見通しとしては、本校主催の大会ができたかと考えている。

室長の講評

昨年度に引き続き、「障害者スポーツを通じた交流活動」に取り組んでいただいた。「ボッチャ」という障害者スポーツを通して、近隣の小学校や地域の方々との意欲的な交流活動を継続しながら、障害者スポーツの普及だけでなく、さらに地域の方々の障害者理解を深める実践となったことは本当に素晴らしいことである。

1月に、千葉県内の市町村教育委員会教育長の協議会があった。そのときに、松戸市の教育長から、「『やきり de ボッチャ』に行き、その場において、とってもいい取組だ、地域の人たちも熱心になっている。」そのような話をいただいた。矢切特別支援学校の先生方が一生懸命取り組んでくれた成果である。

また、オリジナル障害者スポーツの開発にも取り組んでいただいた。「キック&ダッシュ」の今後の競技の広がりや、また交流活動への繋がりが楽しみである。

今回の研究を通して、何よりも嬉しかったのは、矢切特別支援学校の生徒が地域の小学生や地域の方々に、自分たちの得意なスポーツを教えて、共に活動した、そういう姿である。本当に嬉しいことである。

知的障害があっても主体的に誰にも負けない取組ができる。そのような活動を継続的に行っているということは、県内の特別支援学校の交流を進めている各学校において、励ましになる取組である。

今後も障害の有無に関わらず、共に生きる社会を目指し、隣の学校や地域の方々との交流活動を継続して取り組み、さらなる「心のバリアフリーの推進」に向けた教育活動の展開に期待している。